（別紙３）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウイッシュ那加/児童発達支援			
○保護者評価実施期間	R6年12月1日		～	R6年12月31日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	２０人	（回答者数）	１４人
○従業者評価実施期間	R6年１２月１日		～	R6年１２月３１日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	５人	（回答者数）	５人
○事業者向け自己評価表作成日	R７年２月２０日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもたちの主体性を大切に支援を行えている環境とスタッフ間で共有しながら、個々の成長を見守ることができる事業所であること。	・子どもたちが楽しんで必要な支援を受けられるように、運動遊具の使い方を工夫したり、子どもたちが挑戦したいと思える物を手作りして提供しています。・スケジュール等も子どもたちにわかりやすい様に掲示することで切り替えができたり先の見通しを持地自主的に行動ができるようにしています。	・活動経験の質を高められるように、ｽﾀｯﾌの学習や、父母との交流を含め事業所や家庭の連携とまた保育園や幼稚園との連携を行います。
2	・支援を行う事で子どもとの信頼関係が築けることができ子どもたちが事業所に来ることを楽しみにしていること。	・子どもの声に耳を傾けることや会話をすることを大事にし、子どもの環境や心情に寄り添いながら、保護者との対話を重ね子どもやご家族のﾆｰｽﾞに寄り添えるようにしています。	・事業所を利用することで発達や成長を感じて貰えるように保護者へのきめ細かい支援の内容や家庭でできることを提案することと、その活動がどのように発達につながっているのかを含め保護者対応ができるように取り組みます。
3	・個別の支援を行う事で成長や発達をｽﾀｯﾌ間で共有することで子どもたちを通してｽﾀｯﾌも色々な支援の在り方を学ぶことができ、支援へのやりがいを感じることができる。	・その日に利用する子の担当を決め、支援の目標に必要な活動を話し合う時間を作るようにしています。誰が担当しても支援を行う場面での信頼関係を築けるようにすることとその子の特性に応じた支援を行えるようにしています。	・個別や集団で支援を行う事のメリットを支援者側も理解した上で質の良い支援を行えるように取り組みます。利用者一人ひとりの強みを活かせることができるように取り組みます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・個別や集団で支援を行う事のメリットを支援者側も理解した上で質の良い支援を行えるように取り組みます。利用者一人ひとりの強みを活かせることができるように取り組みます。	・事業所での様子を口頭やノートで伝えることで共有できていると思っていました。	・事業所で子どもたちの支援の内容がわかるように定期的に父母参加可能な日を設けることができればと思います。その際に支援計画に沿った支援を行っていることを伝えたり、ご家庭でできる支援を共有できるように工夫をします。
2	・地域との交流ができていないことが課題です。	・年齢が低いことから地域へ出かけことや地域と交流する場所の選択が難しいと感じている。	・事業所に招待したり、近隣の施設にお邪魔させていただくなど、身近で出来る取り組みを検討する必要がある。
3			